

# REPORTER'S EYE



【リポーター】  
渡辺哲也くん(中央在住)  
今回は、大好きな鳥も動物もたくさんいる、子ども動物園でふだん見られない一面を見せてもらいました。

## 動物たちとふれあえる そんな身近な動物園です

皆さんこんにちは。ぼくは狭山台南小学校6年の渡辺哲也です。家ではインコを飼っていて、ぼくは動物の中では鳥が一番好きです。今回は小さいころから何度も行ったことがある、子ども動物園をご紹介します。この動物園には、哺乳類や鳥類などが87種、そのほかに魚類と水生生物がいます。ワラビーやポニー、アメリカバクなど比較的やさしい動物が多く、テンジクネズミやヒヨコ、ヤギは実際に触ったり、抱くことができます。ふれあいのときは、係のお姉さんやお兄さんが親切に教えてくれるので、初めての子どもも心配ないと思います。ぼくも触ったことがあります。テンジクネズミはあつたかく、ヒヨコもとてもかわいらしくて、ずっと抱いていたくなりました。幼稚園

## 動物と遊ぶのは楽しいよ お弁当持って、レッツ・ゴー!



お母さんと一緒にテンジクネズミを抱っこ



これが飼育係長さんに案内してもらいます(門の前で)

の遠足などで、この動物園に来る人がとても多いそうです。

まず、飼育係の人達のお仕事について聞いてみました。ぼくがいつも心配だったのは動物に蹴られたり、噛まれたりしないのかということでした。係長さんは「そりゃ、馬だってツルだって、機械が悪いときは蹴つ飛ばしたりついたりするよ。動物は表情が分からないからね。でも、飼育係や獣医さんは毎日動物を観察して、調子の悪いところがないか、ストレスがたまっていないか、チェックしているんだよ。だからむやみに危害を加えることはないよ。」と教えてくれました。その後、実際に園内を案内してもらいました。サルが寝るところを見せてもらったとき、飼育係のお兄さんがエサを出してきて「さて、このエサには栄養のバランスはもうろん、ほかにもいろんな工夫がしてあります。どんなことでしょうか。」と聞きました。



子ども動物園(柏原364-1 ☎53-9779)

ぼくはエサがやけに細かいのに気付きました。お兄さんは、「そうだね、なぜこんなに細かくするのかと聞くとね、サルの中には力が強いのも弱いのもいるでしょう。だからエサをできるだけ細かくして、床一面に撒き散らすんだよ。特に角っこにね。そうすると、弱いサルもエサが十分食べられる。それから、サルが寝るときは狭い部屋にいるだろう。だから、どうしてもイライラしやすい。そんな時にエサが落ちていけば、つまんで食べるでしょ。そうすると、ストレス解消になるんだよ。人間みたいだね。野菜や果物を細かくするのは大変だよ。でも、この工夫のおかげで狭山市の子ども動物園のサルは、みんな毛艶もよくて元気なんだよ。」と教えてくれました。ぼくは、サルもほかの動物たちも、みんな元気でぼくたちを楽しませてくれるのにはこんな秘密があったのかと、改めて飼育係さんや獣医さんなどのお仕事の大変さに気付きました。大好きな鳥もたくさんいて、近くでよく観察できるし、小さい子ども動物を怖がらずに楽しめると思うので、この動物園が大好きです。これからも、動物に親しめる動物園として、大きな動物園にはないよさを、沢山の人が知ってもらいたいと思います。皆さんもぜひ行ってみてください。

# Opinion

コーナー



西浦信雄さん(青柳)

## 日ごろから ごみの減量を考えながら

私は空いている時間があれば、捨てられている物、これから捨てられようとする物など廃物を利用してリサイクル製品を作っています。例えば、500ccの小型ペットボトルを利用した枕やフライパン、片手鍋などの木の柄で作ったつぼ圧しなどです。もちろん、このほかにも数え切れないほどの作品を作ってきましたが、どれもちょっととした工夫をすれば、ごみになる物がリサイクルでき、新しく生まれ変わります。また、「リサイクルを楽しむ会」にも参加して

いて10数名の仲間たちといろいろなアイデアを出し合いリサイクルに取り組んでいます。これらの作品は、市民館の文化祭などで展示し、市民の皆さんが手に取って見られるようにしています。一人でも多くのかたに見ていただき、それをヒントにし、そして実行してもらいたいというのが私たちの希望なのです。市でも11月2日、「リサイクル都市狭山」を宣言し、リサイクル都市への第1歩を踏み出しましたが、私たちはこれを一時的なものにせず、継続した内容のあるものにしていかねければなりません。市民企業行政が協力して、限られた資源を守るためにも「ごみ減量」「リサイクル」の意識を持つことが大切です。皆さんも自分のまわりからリサイクルに取り組んでみてください。

# HOBBY



田中和夫さん(柏原)

## パークゴルフ

田中さんは現在、柏原パークゴルフクラブの会長を務めています。6、7年前にグラウンドゴルフ、3年前からパークゴルフを始め、今では週3回、1日・2ホールはプレイしています。コンペや花見などもクラブのメンバーと楽しみ、生活はパークゴルフ中心といった感じですが、そんな田中さんも10年程前に病気で手足が不自由だった時期があったそうですが、今では、「体は使わなきゃだめだね。やっぱ適度に体を動かすのはいいよ」と元氣いっぱいです。

## 狭山の生態系シリーズ②



撮影・県生態系保護協会狭山支部 高橋昇さん(中新田)

## ホトトギス

根元から葉が真っすぐに立ち上がり、山林や崖など少し湿り気のあるところに生えています。葉には細かい下へ垂れ下がります。葉には細かい褐色の毛が密生していて、花は晩秋に、葉のつけ根と茎の先に6弁の花を2〜3個ずつ上向きにつけます。花卉の内側にたくさん紫色斑と下のほうに黄色斑があり、この斑点が鳥のホトトギスの胸の斑紋に似ていることからこの名がつけられました。

## 「エネルギー」狭山の企業②



株式会社光明 新狭山1-12-1 ☎53-15241

## 『お客様にベストマッチの物流を提案する』 それが私たちのモットーです

株式会社光明は昭和35年、倉庫業務を主体に発足し、社名は、本田技研創始者本田宗一郎氏の出身地、静岡県磐田郡光明村にちなんでつけられました。現在の業務は、保管・梱包・輸送引越し業務を含みます。といった物流全般から物流機器の製造・販売まで流通分野を総合的にカバーし、日本国内だけでなく世界に向け、品質の優れた効率の高い物流サービスを提供しています。中でも特筆すべきは、物流機器を自社で開発・製造・販売している点で、梱包器具のスタンダードも光明が他に先駆け開発しました。その光明が「モットー」にすることは、「常にお客様の立場でベストマッチの物流を提案していく」ことです。